



歴史はいつも未来へのみちしるべです  
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが  
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら  
いつか来た道まで戻ってみましょう

語り継ごう、明日へ。

## 真夏の夜の、

## ひとときの夢。

こんな時代を知っているなんて、小紙編集に係わっている人の世代が  
わかるというもの。それにしても端末機で本が読める時代とは何とい  
うディスプレイでしょう。広っぱに丸太を二本立ててスクリーンを張り、  
そこに展開する東映時代劇。銀幕のスターの名前も浮かんできます。戦  
後といってもまだまだ娯楽の少ない時。街の映画館にも遠い地域では、  
大人も子供もわくわくしたのもの。テレビの登場は昭和二十八年のことで  
すから、その前後の、夏休みの一夜の楽しみでした。町内会も子供会も  
健全に、そして今よりも格段に機能していた時代でもあったようです。



- ・時の街角／旧浦河支庁庁舎——2
- ・マチの博物館／BONJYU(盆樹)——3
- ・あるばむレトロポリス／ゴミ処理——4
- ・川筋を行く／新川——5
- ・来た道／道／結城屋和服洗染工場——6
- ・道具で道草30年——7
- ・時計のある風景——8

二〇一〇年夏(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目  
TEL(011)561-1597

編集：ひと街ごと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産会館四階  
(向)編集工房海内 TEL(011)633-1651

# 時の街角

北海道開拓の村から

おそらくは今よりもっとお役人の権力が強く建築当時はいかめしく見えたくもありませんしかしコンクリート造がほとんどの現代にあつてはそこへ行くのも何となく気持ちが和らぐような木造の、そしてパステルカラーの建物です

## パステルカラーに19支庁時代の面影。

旧浦河支庁庁舎 — 大正八年建築

北海道ではこの春から、『歴史的』といつてもよいくらいの新制度がスタートしました。それは、これまでの十四支庁がなくなり、九つの総合

振興局と五つの振興局に改められたことです。石狩、空知など従来の名称と所管地域は、網走支庁がオホーツク総合振興局となった以外はほぼ同じです。

支庁制度が始まったのは明治五十年（一八七二）。札幌本庁のほか函館、根室、宗谷、浦河、樺太の五支庁が置かれました。以来、三県一局、十九支庁時代などを経て、このほど改められた十四支庁になるのが明治四十三年（一九一〇）ですから、実に百年ぶりの制度改革ということになります。さて、明治三十年（一八九七）十月、郡区役所を廃止して新たに十九支庁

に再編され、日高国七郡を管轄する浦河支庁が設置されましたが、庁舎が大正元年（一九一〇）の火災で焼失、同八年に再建されたのが今回紹介する建物です。

建設地は太平洋に接する浦河町の市街地中央。漁業と馬の飼育を主産業とする町に、パステルカラーの外



観のみならず、玄関ポーチや窓周りに軒周りの装飾などに凝った洋風建築が新風を吹き込んだことでしょう。左右対称の正面に左翼棟のないのは予算不足からという説もありますが、逆にそれが印象を際立たせているのかもしれない。

また内部も、階段手すり、腰壁の羽目板張り、壁の漆喰塗りなどに意匠が凝らされており、一、二階合わせて五つほどの事務室しかない部屋割とは好対照を見せています。ただ延べ面積が百六十四坪という大きな木造建築にしてはガラス窓がとても多く、これではいくら日高地方といつても冬が大変だったのではと想

像されます。

浦河支庁が日高支庁と改称されるのは昭和七年（一九三二）。同二十九年に新庁舎が建築され、郷土博物館として利用された後、同五十六年に道開拓の村に移築復元されました。



左右対称ではない正面の造りは予算不足だったからという説も支庁長室の意外と簡素な室内にはあまり『権威』は感じられないが……



内外に意匠が凝らされている割には広々、大らかだった時代の雰囲気がかかえる外観のパステルカラー採用もそれほど決断はいらなかったか

※参考文献 北海道開拓の村・開村10周年記念誌

園芸分野での伝統様式の一つ、盆栽  
 これまででは年配者の楽しみとというのが一般的でしたが  
 今やインテリア・アイテムとしての注目度がアップ  
 ミニサイズの人気が静かに広がっています

ミニだって、

長い時間を閉じこめて。

心やすらぐ和の趣として愛好者も多い  
 盆栽。道内では数軒しかないというその  
 ミニ盆栽専門店を、坂野正明さん(五〇)が  
 引き継いだのは昨年とのこと。本業のイン  
 テリアデザイナーの傍ら、趣味の盆栽歴  
 が二十数年。世界に通じる日本の文化と  
 いう確信から、「行く行くはイタリアあた  
 りで盆栽店を開きたいと考えていた」(坂  
 野さん)とは、もはや趣味を超えたプロ  
 中央区宮の森か  
 らこちらへ移転  
 して初めての本  
 格シーズンです。  
 坂野さんが育  
 成販売を手が  
 けるのはすべて  
 ミニサイズの盆  
 栽と山野草です。

真柏。高さ約10cmでこの十分な存在感



生け垣によく見られるイボタ

場所を取らず持ち運びも自由。ですから  
 グリーンインテリアとして、またオフィ  
 スのデスクのオアシスとして、若い人の需  
 要が高まっています。  
 その種類は大きく分けて四つ。一つは

伝統的な常緑  
 の松柏類(五葉  
 松や真柏など)。  
 そして桜などの  
 花物、リンゴや  
 柿といった実物  
 モミジやカエデ  
 ブナなどの葉物  
 です。こちらに



メインはやはり五葉松や真柏。これから好みに仕立てていく楽しみが待っている

は現在、育成中のもの  
 も含めると二千点以上  
 あるそうですが、その  
 最大の魅力は「育てる  
 楽しみ」(坂野さん)。本  
 格的にやるならそれな  
 りの約束ごともありま  
 すが、伝統にとらわれ  
 ずに作れるところがミ  
 ニ盆栽の良さ。  
 購入するときのポイント  
 は、自分の第一印象  
 を大事にすること。

育てる楽しみ、移動自由のインテリア・アイテム

一本ほどですが、こちらがまた切りのな  
 い「鉢合わせ」の魅  
 力。坂野さんによ  
 ればこれでもまだ  
 数が足りないそう  
 です。ミニ宇  
 宙の奥の深いこと  
 です。  
 盆栽の屋外展示  
 は十一月一杯まで。  
 雪のある期間は休  
 業の予定です。「お



坂野さんを入れるミニ盆栽用の鉢。小さいのは直径わずか真柏にハサミをいれる内にくさ

木の高さはせいぜい一〇センチほど  
 しかなくとも、そこに閉じ込め  
 られた時間に、訴えかけてくる  
 ものがあるでしょう。三百円  
 ほどから十数万円という値段の  
 差にも、その時間の長さが反映  
 されているようです。幹が太  
 くなり、形が整うまでに十年も  
 二十年もかかるのですから「始めるなら  
 若いうちに」と坂野さんがアドバイス。



山モミジの下で憩う人? 盆栽で遊んでみるのも



上:盆栽にできない木はないと思われるくらい手前はグミかなっている  
 下:盆栽用の超ミニの鉢のコレクションの一部手前の500円硬貨と比較を

好きな方は何度でも足を運んでくださ  
 い」とは奥さんの喜久子さん。花木に詳  
 しいパートナーであることは、自らの写  
 真できれいに仕上げたブログでもわかり  
 ます。ミニ盆栽教室や山野草の寄せ植え  
 教室を随時開催。  
 連休などを利用  
 して道内各地か  
 らの来訪も多い  
 と聞きました。



店内にはたくさんの鉢類を陳列



デザイン事務所の1階が店舗に



子供会で町内の廃品回収に回ったことも懐かしい  
それもリヤカーで(六八年、西区琴似で)

ごみ収集車の登場は1963年(昭38)  
写真は65年(昭40)、中央区南1西7で



## あるばお レトロポリス

### ごみ処理

札幌市が有料化という新ごみルールを開始して一年  
廃棄ごみは昨年より四〇%近く減少とか  
人の暮らして切っても切り離せないごみの問題です  
ここへ至る道のりを振り返るのも無駄ではありません

# 「スリムシティ」に向けて いつの時代も対策に腐心。

札幌市が平成二十九年度を目標年  
度とする「スリムシティさっぽろ計  
画」をスタートさせたのは同二十年  
三月。全市挙げてのごみの減量に乘  
り出したのです。

明治初頭に二戸、七人の人口？  
でスタートした札幌。今やその数は  
百九十万人を超えています。人が  
集まれば当然ごみの量も増加。平成  
二十一年の全市一日一人あたりの廃棄  
ごみ量は四九一g。スリム計画では  
これを四〇〇g以下にする目標です。

さっぽろ文庫91「ごみとリサイクル」  
によりますと、昭和九年度の同  
排出量は七五〇g。また同三十六年  
には九〇〇gを超えていたそうです  
から、その減量には長い年月がかか  
るものです。そこで、札幌市のごみ  
処理の歩みをダイジェストで振り  
返ってみることにします。

開拓使が札幌の市街地に七カ所の  
ごみ捨て場所を指定したのは明治五  
年(一八七二)のこと。続いて同十八  
年に「札幌市街々路掃除法」が公布  
掃除請負人なる役人？ が登場して  
います。そして明治三十三年、わが  
国初の廃棄物処理に関する法律「汚物  
掃除法」が制定されました。札幌で  
も同法に基づ  
く規定が定め  
られ、ごみ処  
理は市の義務  
に。以後、昭  
和二十代終わ  
りまで大きな  
改正は行われ  
ませんでした。

この間に発生した新たな問題は、  
生活の洋風化に伴って暖房方法も変  
わり、石炭の灰(アーク)の処理が必要  
になったこと。その灰が乾燥した馬  
糞とともに春先の強い風に舞い、市  
民生活の悩みの種となりました。今  
では懐かしくもある馬糞風。原因は  
戦後長らく、ごみの収集・運搬に馬  
車や馬そりの力も借りていたからで  
す。馬のおしめならぬ「受糞装置」が  
義務化されたこともあります。

昭和二十九年に新しい清掃法が制  
定されて以来、徐々に今日の体制  
に整えられていきます。オルゴール  
を取り付けた収集車が回るのと同  
三十八年。立会不要収集方式、す  
なわちごみステーション採用が同  
四十五年。発寒清掃工場の完成が翌  
年です。

以後はほぼ現在のかたち。市民  
のごみに対する意識も変化してきた  
ことは、廃品回収という呼称が資源  
回収、リサイクルへと変わってきた  
ことでもわかります。



発寒清掃工場の完成は71年(昭46)  
前年にゴミステーション方式が採用されている

左/共同厨芥容器とは生ゴミ集めか(56年、北区で)  
中/共同炭から箱を製作中。石炭の燃えカス集め(57年)  
下/時代も移ってこちらは資源回収風景(77年、東区で)  
※上5枚の写真はいずれも札幌市文化資料室提供



# 新川

## 川筋を行く

人と川の  
様々な  
かわりを  
たずねて

### 日本海へ一直線

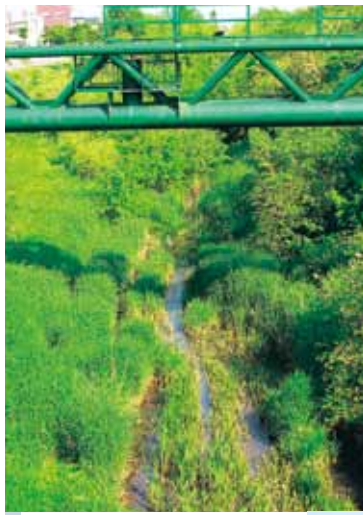
## 至るところイタドリ 人工河川に風情求めて。

どこにでもありそうな名前の川ですが、地名辞典を引いてみると北海道には一カ所。「札幌市と小樽市を流れる二級河川」とあります。そうです、源流から河口までひたすら一直線の川です。源流？ はて、どこでしたっけ。

もう少し地名辞典か

ら引用してみましょう——札幌市の中央区・北区・西区の境界付近、北海道大学第二農場西側で、琴似川と、桑園新川が合流。以後北西方向一直線に流下し、小樽市銭函海岸で石狩湾に注ぐ——新川を皆さんで南北に走る道路の基点付近、シラカバ樹林の下に細い流れを見つけてきました。川つぶちを車で行き来している限りはわからない桑園

新川上の橋(上)と西陵橋(下)でこのイタドリの旺盛な生命力が、兩岸にどこまでも続いていく



ら、あくまでも

人工河川。いわゆる川の風情を求めるのは無理なようです。

まずはおびたしいイタドリと灌木に覆われた土手の底深く、細い流れが見え隠れするだけ。水辺に下ることも



地域住民の手による桜並木の造成イタドリより先に季節到来を告げる

新川地区の歴史を物語る力士・若勇の碑農業の基礎をつくった人



似川が合流。日本海へ十三キロの旅です。といつても新川はもともと明治

十九年(一八八六)から、人の手で開削された運河を兼ねた排水溝。しかも河川管理上、新川と呼ぶのは琴似川と琴似寒川(寒川)の合流点から下流というのですか



左(山側)から琴似寒川が流れ込んでここから先が本川の新川(西陵橋付近)

きません。この間に、川の流れは見えずとも心を和ませてくれるのは、春の桜並木でしょう。地区

の緑化推進協議会が、平成十年から三年かけて右岸堤防七・五キロに七百五十五本を植えました。清掃活動やイベントなどを通じて住民ふれあいの場となり、昨年度、道の地域貢献賞を受賞しています。

また、新川橋とともに建つ力士若勇の碑が、かつては畑作農村だった新川の歴史を伝えてくれます。そしてイタドリとともに常に付いてくる手稲山を、大きく西側に望むことのできるのが前田森林公園の入口あたり。園内の全長六百メートルの運河は、両側のポプラ並木とともに、その頂へ向けて壮大な景観

前田森林公園の運河の眺望正面が手稲山とは粋な設計だ



若勇は本名を前谷省三といい、草相撲の大関を張った人物。富山県出身で地区の農業の基礎を作り出した。

一方、流れは西区八軒の下水処理施設、新川水再生プラザあたりから川らしくなりますが、まだまだ続くイタドリ。上を国道五号線が走る琴似新橋、札幌市消防学校のある新川大橋、さらに前出の二つの川が合流する西陵橋、そして天狗橋。

ようやくイタドリから開放されるのは手稲高校付近からでしょうか。土手も整備され、散策路が作られ、釣り糸を垂れる人もいます。

森林公園橋からズームで中心部を遠望。一直線の流れがわかる



森林公園橋の下を流れる新川を作り出しています。

この先が、程なく小樽市銭函を横切って日本海です。森林公園橋から札幌市方向を振り返ると、駅周辺の高層ビルがうっすらシルエットに。この川の一途な直線を再確認。



# 来た道、行く道。

様々な先達がいるからこそ  
二十一世紀があるんだよ——  
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を  
お待ちしております。



とても同じ帯とは思えない

どこのお宅でもタンスに何枚かは眠っている和服や帯。恐らくはほとんどの人が、だいぶ以前に作ったものだからもう年に合わない、着られないとあきらめているのではないでしょう。ところが、今紹介する太田利盛さん(七)の手にかかると、これが年齢相応の、注文どおりの色に仕上がるのです。

の染物屋に就職しました。しかし持ち前の探究心からやがて本州へ。金沢や京都で、身分を隠してさまざまな染め物仕事の修行を続けました。



そして二十五歳の時、「和服染めの技術で食べていける」と自信が付いたので再び小樽へ戻り、こちらの結城屋和服洗染工場に入りました。当時出入りしていた呉服屋さんからすぐに「手が変わりましたね(良くなりましたね)」という評判が立ったものでした。

結城屋和服洗染工場  
小樽市花園4丁目20-12  
TEL (0134) 29-3668



帯の再生に向かう太田さん。模様まで筆を入れられるのは若い時に友禪も修行したから配色は抜染前に決まっている

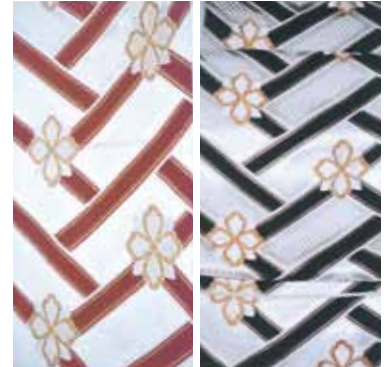
二代目を継いでからも、機会を見つけては全国を見聞して歩きました。が、いつしか世の中は洋服全盛。風向きが変わってきたのが不況になってからです。業種によつては和服が必要になり、女性もその良さを直視し、でもタンスを



加工前



加工後



上2枚は黒留袖、下は帯の加工前と後。黒留袖は模様にも独自の意匠が加えられている(加工前後の写真はいずれも太田さん提供)

開けてみるとそこにあるのは若い時の着物。太田さんの再生加工という技術の一番がやってきたのでした。

すが、必ず入っている模様の色はどうするのでしょうか。果たしてこれも太田さんの手書きでした。「友禪が出来ないと駄目(太田さん)とは、まさに太田さんのマルチ職人たるゆえんです。

## 和服の再生加工を

### 一人でこなす “マルチ職人”

太田利盛さん——小樽市・結城屋和服洗染工場



染め替えの注文を受けてからの太田さんの作業工程をざっと教えてもらうと、まずは着物をほどこいの洗い。そして

み抜き、抜染へと移ります。それぞれの工程に専門職がいる分業が一般的ですが、太田さんはこれを一人でやつのけるのです。特に不要な色を取り除く抜染は、どういう色に仕上げるのかを頭に描いての作業ですから、経験が物を言います。仕事はさらに無地染め、型染め、手書きと続き、色止めで完成。ここで、地を染め変える作業は素人でも想像は付きま



太田さんの仕事場。分業が普通だが一人でこなすのでさまざまな機器が

長で表現するもの。小樽と札幌の水の硬度質が違うことを忘れてはならない。本業のほかに経産省の人材育成プロジェクトの講師を務めたり、主婦や子供たちに教えたり。どこまでもマルチな太田さんです。

親交が深まるにつれて宮田画伯から聞いたさまざまな話なかでも筆者を驚かせたのは明治大正期に活躍した大物画家や彫刻家たちとの交遊。まずは札幌中学時代の話から

## 宮田画伯の生い立ちと、多彩な交遊録。

写真のプリントを届けて以来、年齢はずいぶん離れていたのだけれど、なぜか気が合い、宮田さんのお宅にしょっちゅう行くようになり、この付き合いは、宮田さんが亡くなるまで続いた。私が活字でしか知らない世界を、宮田さんはリアルタイムで生きていたのだから、いろいろな話を聞かせてもらった。

黒田清輝も中村不折も、満谷国四郎も石川寅次も、新海竹太郎も萩原守衛も、宮田さんはじかに会って話をしていくのだから。中村彝や中原悌二郎、長沼チエ子とは、夜を徹して語り合ったという。

宮田さんのお父さんは津軽藩の勘定方の家に生まれた元士族で、明治維新で没落し北海道で一旗揚げると、奥さんと宮田さんを奥さんの実家にあずけて津軽海峡を渡り、運送業で大成功。妻子を札幌に呼ぶかと思いきや、俺には好きな女ができて今一緒に暮らしている。二人の間に子供はいないので、息子だけ渡してくれというヒドイ話。

今なら「とんでもない、そんな話は聞けない」というところだが、時代は明治。実家とはいえ弟が跡を継いで肩身は狭い。息子の将来を考え、泣く泣く宮田さんを夫の元に送り出

したという。継母になるのでいじめられないかとそれだけを心配して。

新しいお母さんに初めて会った印象は……。  
世の中にこんなキレイな人がいるんだ！

町内では、金物屋の池内さんの奥さんとどっちが美人だろうと噂になっていたくらいだったとか。しかも、とてもやさしい人で、宮田さんは一回も叱られたことはなかった。その上、宮田さんは津軽弁でなまってるので、他の子供にからかわれるとかわいそうと一生懸命になまりを直してくれたとか。

子供というのは現金だから、いつしか津軽のお母さんよりもこの札幌のお母さんにすっかりなついでにまった。どこに行くのも一緒に、銭湯も二人で女湯で、洗い髪姿の母を道行く人が振り返るので、子供心に誇らしかった由。

自分では、池内のおばさんよりも若くてキレイと思っていた。

ある日、お父さんが写真の道具一式を買いこんで来た。当時だからずいぶん高価だったと思う。しかし、お父さんは結局モノにできず投げ出してしまふ。それをそばで見っていた宮田さんは、読めない字はお母さんに教えてもらい、小学生で完全にマスターしてしまつたという。モデルはもちろんキレイなお母さん。

毎日一緒に銭湯に入っていたので、お母さんにも抵抗は全くなかったみたいで、アルバムがお母さんの写真で埋まっていたという。スポンサーがお父さん、モデルがお母さん、カメラマンが息子の宮田さん。こんな世界が明治の札幌に



宮田画伯が撮影した札幌市時計台(年代不詳)

あつたなんて奇跡としか言いようがない。

小学校を卒業し、中学に入学。当時札幌には中学はこの札幌中学一校のみ。図画の教師がヤギというあだ名の林竹次郎で、この先生に水彩をほめられ、作品を教室に貼り出されたのがきっかけで絵が好きになり「かすみ会」に参加。将来は画家もいいなと思うようになったとか。同じクラスに中原(悌二郎)というの

があり、お互い絵が好きだからすぐに親しくなった。でも絵にかける情熱は自分の比ではなく、休み時間も放課後もスケッチをしている状態。

でも中原の絵は林さんからほめられることも、教室に貼り出されることもなかったという。「かすみ会」の仲間も全然問題にしておらず、クラスでは下手の横好きとされている有様。クラスでは宮田、全校でなら二年上の大塚さんということになっていた由。

ヘタな絵ばかり描いて他の勉強を

しない中原のことが心配で「英語や国語もやらんとお前、また落第するぞ」と忠告したのだけれど彼は悠然たるもの。

そして彼の二度目の落第が決定的になったある日、中学を中退し本格的に絵の勉強をすべく上京することを聞かされる。その日「かすみ会」の九十郎(志賀九十郎)と藤村操先輩の「厳頭の感」で彼を送ることに。

厳頭の感を残して華厳の滝に消えた藤村操さんが、宮田さんたちに与えた影響はものすごいもので、クラス一番の秀才永田も絶対に一高に行くんだと言っていたくらい。そして藤村さんが札中の先輩というのでも彼らの大きな誇りだった。

豊平川の水とこしえに碧にして問えども答えず、今我等君を送る。君の前途に幸あらんことを。北大をめざす小野、慶応へ行く中村、一高東大の永田、そして林先生の出た美術学校師範科をめざす志賀。彼らに先駆けて中原が今、札幌を出てゆくのだ。大いなる悲観が大いなる樂觀に一致する世界を求めて。

〈この項続く〉

※1/いずれも明治から大正・昭和にかけて活躍した洋画家  
※2/同じく彫刻家

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。

## 街の変遷を

### 映して……。

都市、街というものと同じように成長し、また年を取っていくことは分かっているけれども、見慣れてしまうとその変化には気が付きにくいものです。札幌のベッドタウンとして成長してきた北広島市の玄関口、JR北広島駅。道管北広島団地の造成着工



が昭和四十五年（一九七〇）で、メインの西口に太陽時計が建てられたのが同五十五年。その後、高架駅となり、周辺に分譲マンションが建ち、広場が整備されと時を経て、今や東口のスマートなこと。駅前時計一つにも、時代の変遷が表れています。



## Now Printing

●本づくりのパートナー  
(社)印刷紙工

**居間で本づくりセミナーを**  
自分史など本をつくりたいと考えている人のために、出前の本づくりセミナーを承ります。三人以上のお集まりで会場をご用意いただけます。日時をご相談の上、印刷担当者や編集者がお伺いしているところとアドバースさせていただきます。もちろん無料です。

**記念誌は未来への道しるべ**  
企業や団体の十年を一区切りとする創立周年、二十周年、三十周年と歴史を重ねていく度にその歩

**本**  
つくってみませんか  
句集・歌集・詩集・小説・随筆集…  
自伝・体験記・回想集…画集・写真集



句集「父の咳」

浅井通江

四六判・230ページ

長年、一つのことに取り組んでいると、時どきの作品にその当時のさまざまな状況が反映されるもの。五七五のたった十七文字といえども

同じです。まして平成3年から21年までの18年間に詠んだ392句を1冊にまとめたものであれば、来し方にも感慨がひとしおのはずです。

作者は昭和19年生まれの主婦。39歳のときに公民館の俳句講座に参加したのが句作の始め。本のタイトルにもなった「父の咳眼鏡をのみ出せり」の一句にみられるような、少し人とは異なった視点からの作品が特徴のようです。

お名前がかねがね桃の蜜を拭き石鹸に師走つると逃げにけり六月に包み込まれている目玉あめんぼう朝の体操もう済んでなど、序を寄せた主宰によると「最短詩型の中に日常感覚を豊かに弾ませている」ということとなります。一見、自由律俳句のような趣もこのあたりから出てくるのでしょうか。

みを記録しておかなければ資料が散逸、功績のあった人も物故していきます。未来への道しるべ、歴史はきちんとまとめておきたいものです。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承っております。

**小紙を無料で差し上げています**  
慌しい時の流れに、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙。ご希望の方には無料で定期的にお送りしております。印刷紙工までお申し込みください。